



報道関係者 各位

平成 29 年 4 月 4 日
横 浜 市
東京急行電鉄株式会社

「次世代郊外まちづくり」が次のステージへ ～横浜市と東急電鉄が共同で進めるまちづくりの包括協定を更新～

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄という）は、2012年4月に締結した『次世代郊外まちづくり』の推進に関する協定（以下、本協定という）を4月1日付で更新しました。

2013年度には、本協定に基づき、「次世代郊外まちづくり」の活動指針となる「次世代郊外まちづくり基本構想（以下、基本構想という）」を策定しました。以降、基本構想に沿って、活発な地域活動が生まれた「住民創発プロジェクト」など、これまでリーディング・プロジェクトを毎年度定め、具体的な取り組みを通じて、モデル地区である「たまプラーザ駅北側地区」（横浜市青葉区美しが丘1・2・3丁目、以下、モデル地区という）のコミュニティの醸成を推進してきました。

本協定の更新は、共同でモデル地区での取り組みを引き続き進めると共に、「次世代郊外まちづくり」のこれまでの成果を、地域の特徴にあわせて、東急田園都市線沿線のその他の地域への展開を目的に実施するものです。

【モデル地区でのこれまでの主な取り組み】

① 「次世代郊外まちづくり基本構想」の策定

「たまプラーザ駅北側地区」をモデルに、横浜市内の東急田園都市線沿線の郊外住宅地において、「産・学・公・民」が連携して、良好な住宅地とコミュニティの持続・再生を目指すまちづくりに取り組んでいくためのビジョンを策定しました。

② 「住民創発プロジェクト」の実施支援

モデル地区において、基本構想の方針や取り組みに合致し、多世代が支えあう豊かなコミュニティの実現に繋がる企画を、地域住民やNPO、さらには民間事業者など、多様な主体から募集しました。応募された企画の中から、「次世代郊外まちづくり」の実現に資するものを選定し、「次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト」として、これまで15企画の実施を支援し、現在も活動・事業を継続している団体が多数あります。

【今後の主な取り組み】

① WISE Living Lab（ワイズ リビング ラボ）の全体開業

「次世代郊外まちづくり」の情報発信や、基本構想に基づくプロジェクトなどの活動拠点として、4月末にグランドオープンする予定です。今年3月からスタートした健康づくりに関する連続セミナーの実施、その他イベントやワークショップに加え、地域で活動する方々への共創スペースの貸し出しを通じて、郊外住宅地におけるリビング・ラボ※の取り組みを推進します。（別紙①参照）

② （仮称）美しが丘一丁目計画の推進

2016年7月に都市計画決定した地区計画に基づき整備が進む（仮称）美しが丘一丁目計画では、2019年春に共同住宅・地域利便施設から成る施設がオープンする予定です。地域利便施設では「コミュニティ」、「子育て」、「コワーク」をキーワードに、住まいから歩ける範囲内に暮らしに必要な機能が整い、誰もが安心して住み続けることができるまちを目指す「コミュニティ・リビング」（参考資料参照）の取り組みを推進します。（別紙②参照）

※住民、企業、地域行政、学校などが共にモノやサービス、あるいは行政施策などを共創していく研究室（ラボ）となる場

■コミュニティ・リビング（目指すまちの将来像）のイメージ
 （「次世代郊外まちづくり」の基本理念の一つ）



コミュニティ・リビング

歩いて暮らせる適度な生活圏ごとに買い物、福祉、医療、子育て、コミュニティ活動など、地域に必要な機能を空家や空き地、土地利用転換の機会などを活用して適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方。コミュニティ・リビングを実現することで、住まいから歩ける距離に暮らしに必要な機能が整い、高齢化した住民が自宅で安心して暮らせるようになります。「次世代郊外まちづくり」を進める上で、主要な理念として位置付けています。

■これまでの主な取り組み

年月	主な取り組み
平成23年 12月	横浜市が「環境未来都市」に選定
平成24年 4月 6月 7月	横浜市・東急電鉄「次世代郊外まちづくり」の包括協定締結 モデル地区「 <u>たまプラーザ駅北側地区</u> 」（美しが丘1丁目・2丁目・3丁目） を 選定 まちづくりへの参加を促すことを目的とした「キックオフフォーラム」開催
平成24年10月 ～平成25年3月	住民ワークショップ（計5回）／たまプラ大学（計8回）開催
平成25年 6月 ～	「 <u>次世代郊外まちづくり基本構想2013</u> 」を策定 毎年度リーディング・プロジェクトを定め、具体的な取り組みを推進 【主なリーディング・プロジェクト】 ・住民創発プロジェクト 住民やNPO団体などから広く募集し、15の企画を認定 ・地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり 地域ぐるみで省エネ行動を促進する「家庭の省エネプロジェクト」など ・まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり 子育てしやすいまちを目指し、保育・子育てに関わるさまざまな主体のネットワーク構築など ・地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト 安心して住み続けられるまちを支える医療・介護の連携促進と、情報インフラのパイロットモデル構築 ・「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクト モデル地区で共有するまちづくりの目標・指針として「暮らしと住まいのランドデザイン」を策定など ・公的資源の新たな活用の仕組みづくり 公園・遊歩道を活用した「健康づくり歩行者ネットワーク」や学校との連携など
平成28年 7月	地域利便施設を誘導するための規制誘導手法として地区計画を策定し、都市計画決定
平成29年 2月	「次世代郊外まちづくり」の情報発信・活動拠点（ワイズ・リビング・ラボ） <u>共創スペースオープン</u>
4月	横浜市・東急電鉄「次世代郊外まちづくり」の包括協定更新

【WISE Living Labの詳細】

■施設概要

「WISE Living Lab」(ワイズリビングラボ) (以下、本施設) は、「次世代郊外まちづくり」の情報発信や基本構想に基づくプロジェクトなどの活動拠点となります。本施設はモデル地区内で東急電鉄が所有する土地・建物を活用し、「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの将来像「WISE City」(※別紙2-1)の体現に向けた機能が導入される3棟の建物から構成されます。

2017年2月1日(水)には、本施設の中核機能となる「共創スペース」がオープンし、ディスカッション、セミナーやワークショップの場として、東急電鉄だけではなく地域住民や企業による活用が始まっています。また、本年4月末には地域に開かれたカフェもオープンする予定です。

そのほか敷地内には52台分の時間貸し駐車場を設けており、隣接する美しが丘公園でのイベントなどの開催時は時間貸し駐車場スペースを閉鎖し、地域と一体となったイベントなどを開催する予定です。

【西棟】「エネルギーと暮らしのギャラリー棟」

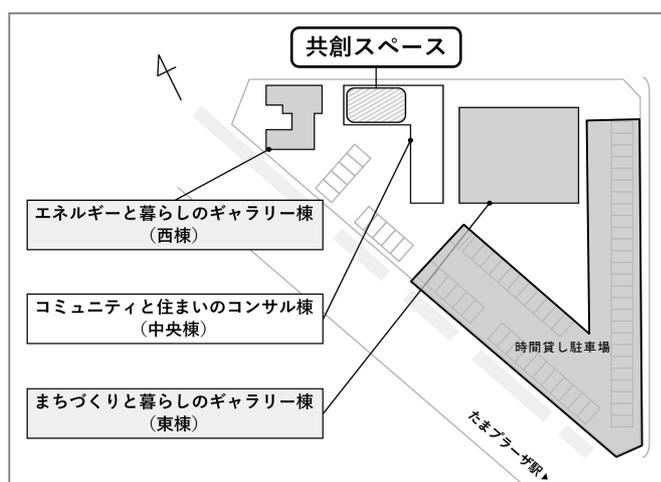
イツツ・コミュニケーションズ株式会社が提供する「インテリジェントホーム」を体感することができ、また今後は、次世代の戸建住宅のあり方を示した実証モデルの展示や、最新の省エネ設備・家電などを展示予定です。

【中央棟】「コミュニティと住まいのコンサル棟」

「次世代郊外まちづくり」を考える各種セミナーやワークショップを開催し、コミュニティの醸成と地域活動・活性化の場となる「共創スペース」のほか、今後は空家活用・住み替え・建て替えなどを促進するための、住まいの相談窓口となる機能の導入を目指します。

【東棟】「まちづくりと暮らしのギャラリー棟」

「たまプラーザ駅北地区 地区計画」に定められる集合住宅のモデルルームをはじめ、地域に開かれた飲食店(カフェ)が4月末にオープン予定です。



WISE Living Lab全体図



WISE Living Lab中央棟(右)と西棟(左)

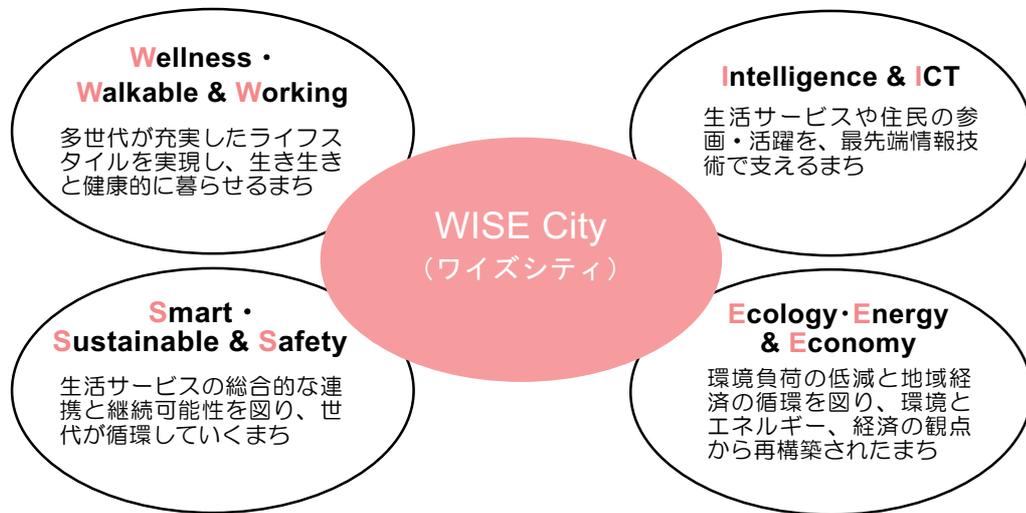
所在地：横浜市青葉区美しが丘二丁目23番1、3

面積：3,892.38㎡

所有者及び事業者：東京急行電鉄株式会社

ホームページ：<http://sankaku-base.style/campaign.html>

■ W I S E C i t y の概要



【(仮称) 美しが丘1丁目計画の概要】

■ 施設概要

- 敷地面積 : 9,688.91㎡ (2,930.89坪)
- 用途地域 : 第一種中高層住居専用地域、近隣商業地域
- 建蔽率 : 50%
- 容積率 : 250%
- 構造・規模 : 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・地上10階地下1階建、3棟
- 建物概要 : 共同住宅(278戸)
地域利便施設 2,000㎡

■ 案内図



所在地：横浜市青葉区美しが丘一丁目8番1(地番)

■ イメージパース

